

野の仏さまにおききました

2022.12.19(月) NO2



仏頭(倉治)

元・警察学校1校射的場上、わかるかなあ〜おられるかなあ
風化ではない、人的力が加えられている。何故、誰が、痛かった、悲しかったやろう

【出家・・・修行へ決意させたものとは】

父親はシャーキャ(釈迦)族の王ゴータマ・シュッドーダナ、母親はコーリヤ国の姫であったマーヤー。美しく心優しい王妃だったが、シッダールタを出産した七日後に、この世を去る。

その後は、マーヤーの妹マハーパジャパティが王妃となり継母として深く慈しみ王子を育てた。

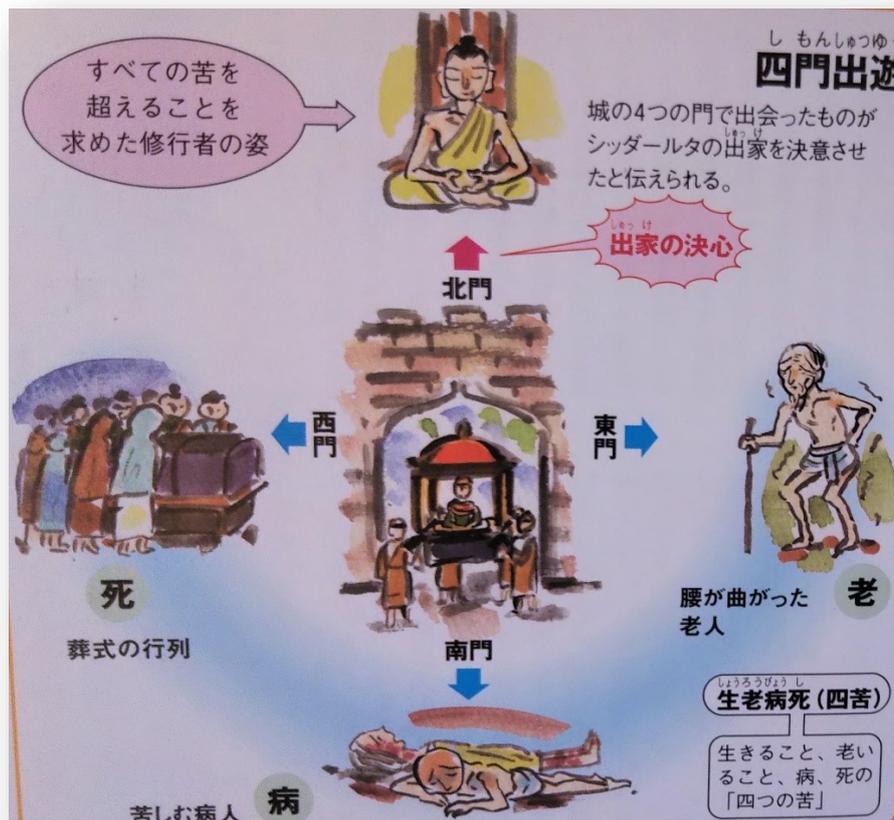
十六歳でヤショーダラと結婚、きわめて裕福な暮らしをして子どもを授かりました。

ある日、何不自由ない暮らしの中で、**東の門**から出て行ったところで老人に会い、その醜さが自分の未来の姿であることを知って意気喪失し、城内に帰ってしまった。

次の機会に**南の門**から町に出ると病人を見、**西の門**から出ると死人を葬る行列に出くわし、死は何人も避けられない事実であると知る。

人生の真実の姿を見て悩むブッダは、**北の門**から出たときに清々しい出家者の姿に魅せられ、これこそ自分の進みゆくべき道だ

と決意したという。



「四門出遊」

ブツダが老・病・死の問題に悩み、見つめて道を求められたのだという。
結婚して子供もいたにもかかわらず、国も家族も捨てて二十九歳の時に出家した。
有名な「^{しもんしゅつゆう}四門出遊」という伝承の話はよく知られている。

【苦は8つの種類がある】

仏陀の教えは、すべては苦しみという。
「苦しみ」正体、人生は苦しみに満ちている。
人は生まれ、生きて苦しみ、病と死に苦しむ。
釈迦が知った苦しみの本質は我執だった。
我執とは「自分」に執着し、さまざまな「欲」にとらわれることをいう。
それが苦しみを次々と生み出す。
我執がある限り避けられない苦しみが

「四苦八苦」

お釈迦が悟りを開き、仏陀となって説いた教えが、四苦八苦なのだ。
人生そして人間の存在を「苦」ととらえるところから、仏教は出発している(四苦と八苦ではなく、四苦と四苦で八苦のこと)。
四苦とは生・老・病・死のこと。
生まれた以上、誰一人として例外ないステップである。

これは「苦」ではなからうか・・・と、釈迦はおっしゃるのです。



他の四苦は、まず「愛別離苦」^{あいべつりく}・・・愛する者と別れることの苦しみである。死別もあれば生前もあるし、その理由は人によってさまざまだ。

次は「怨憎会苦」^{おんぞうえく}で、これは嫌ったり憎んだり、恨んだりする者と出会う苦しみをいう。理由は何であれ、避けたいと思う者とまったく出会わないで、人は生きられるだろうか、である。

そして「求不得苦」^{ぐふとくく}。文字どおり、求めるものを得られない苦しみのこと。きりのない欲望は、次から次へと求めることをやめない。満足することがない。

最後は「五蘊盛苦」^{ごうんじょうく}だ。蘊は集まりのことで、五蘊とは、色・受・想・行・識^{しき じゆ そう ぎょう しき}の五つの集合。

色の原語は形の意味で、肉体も含め物質全般を表す。「色即是空」というときの色であり、カラーではない。

受は感覚、感受を意味し、想はイメージ(心に描く形、想い)、行は意志である。

識は識別、判断のことで認識の識だ。

つまり、五蘊は色(物質)以外は心の働きを指していて、人間を形づくる心身のことで、これらはいずれも非常に苦しみのかたまりではないかということだ。

この四苦八苦から抜け出す道を釈迦は修行、瞑想(禅)によってつかみ(悟り)、仏の教えとしたわけである。

【人間の煩悩は百八つ】

四苦(4×9)+八苦(8×9)=108 これはちょっとヤバイ(笑)

もうすぐやって来る大晦日、除夜の鐘で煩悩を打ち砕いて下さい。

【どんな時代にも確かなことは】

それは、人は老いるものであり、そして最後は死を迎えるということです。

「生・老・病・死」ということは、私たちにとって、切り捨てることのできないもの、動かし得ないものである。

そこで、その動かない老・病・死、特に死というものを、しっかり見つめることによって、寿(いのちながし)、生きていくこと、生命のほんとうの有難さが分かるのです」と教えていただきました。

老いも病も死も、人生の影の部分の世に見えるかもしれません。

しかし、何人も生まれたからには避けようのないものです。

避けようのないというと、これほど確かなものはないとも言えましょう。

かなわぬことを望んでも夢破れるのは、当然ですと

野の仏さまは『おっしゃいました』

了

*「野の仏」の写真は交野市内で撮影したもので、文と一致したものではありません
(参考資料) やさしい仏教 ブッダの教えから
一個人 日本の仏教入門